

web 掲載補助資料：研究 1 の分類作業と分類結果の詳細

不適切回答の除外 はじめに、参加者に産出された比喩表現のなかで、不適切な回答を除外した。不適切な回答は、以下の 3 つの基準のどれか 1 つでもあてはまる回答とした。すなわち、(a) 比喩表現でないもの(回答例：「この授業は眠くなった」、全条件で合計 12 文)、(b) 文量が多くかつ回答のどの部分を喩辞としているかわからないもの(最小で 136 字、最大で 540 字で書かれた回答。全条件で合計 3 文)、そして(c) 皮肉になっているもの(回答例：「この授業は静かでとても集中できる授業でした」、全条件で合計 5 文)であった。有効回答は、授業の非当事者条件で 115 文、授業の当事者条件で 114 文、食べ物の非当事者条件で 116 文、食べ物の当事者条件で 111 文となった。

喩辞の内容に基づいた回答の分類 第 1 著者と、研究目的を知らない 2 名の研究協力者の計 3 名が、産出された比喩表現の喩辞の意味に基づいて分類を行った。回答の分類は、はじめに各分類者が個別に分類作業を行い、続いてそれぞれの分類結果について 3 名の分類者で合議した。各分類者が個別に分類を行う段階では、第 1 著者が全ての参加者の回答を印刷したリストを 2 名の研究協力者に配布し分類を行ってもらった。分類は、ある参加者が回答した比喩表現の喩辞部が、他の参加者が回答した比喩表現の喩辞部と、意味的に類似しているかどうかを規準として行われた。産出された比喩表現の中には、その比喩表現が成立する根拠について言及している回答も見られたが、この場合にも根拠の部分は無視して、喩辞部の意味のみを基準として分類を行った。そして、各条件で 2 つ以上の回答が同じカテゴリとして分類された場合に、そのカテゴリを代表する暫定的なラベルを与えた。

次に各分類結果について 3 名の分類者で合議を行った。ここでは、個別に行われた分類結果を 3 名の分類者で共有し、最終的分類について合議した。はじめに、個別に行われた分類の際に付けられた暫定的なラベルが、3 名の分類者

Web 掲載補助資料 1

間で一致しているかを確認した。暫定的なラベルが 3 名の分類者間で一致していた場合は、そのラベルを最終的な分類結果として採用した。この段階で 3 名の分類者間におけるラベルの分類一致率は、授業の非当事者条件で.67, 授業の当事者条件で.54, 食べ物の非当事者条件で.72, 食べ物の当事者条件で.66 であった。つぎに、3 名の分類者間で暫定的なラベルが一致しなかった回答に対して、新たに一致するラベルが付けられるかを議論した。議論の後に、3 名の分類者間で一致するラベル付けができた場合には、そのラベルを最終的な分類結果として採用した。議論の後に、3 名の分類者間で一致するラベルづけができなかった場合には、どのラベルにも分類しなかった。

以上のラベルによる分類の結果、条件ごとにいずれかのラベルに分類された回答の比率は、授業の非当事者条件で.76%, 授業の当事者条件で.68, 食べ物の非当事者条件で.74, 食べ物の当事者条件で.58 であった。

分類されたラベルの種類数 分類の結果、各条件で分類されたラベルは、授業の非当事者条件で 16 種類、授業の当事者条件で 17 種類、食べ物の非当事者条件で 20 種類、食べ物の当事者条件で 19 種類となった。